

大分県の林業の現況について

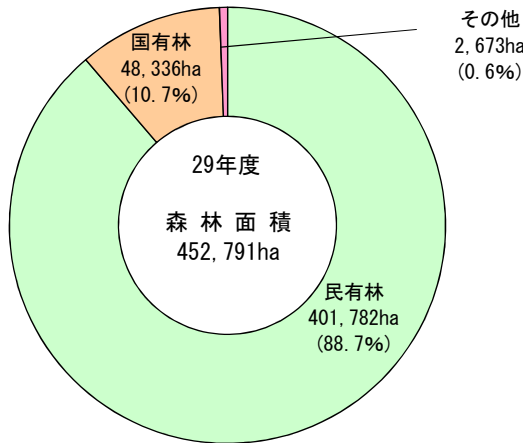
◎ 大分県の森林面積は約45万3千haで県土の71%を占めており、この豊かな森林資源は、木材の生産をはじめ、しいたけ等の特用林産物の生産など、林業・木材産業の発展と山村の振興に寄与している。また、森林は、水源のかん養や県土の保全、保健休養の場の提供、地球温暖化の防止などの公益的機能を発揮しており、安全で快適な県民生活の確保に大きな役割を果たしている。

① 森林資源の現況

ア 森林面積

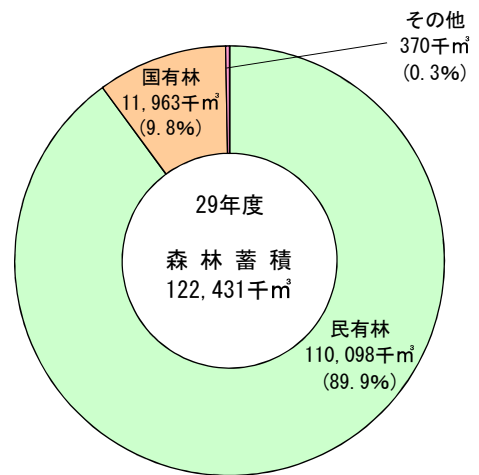
- ・ 地域森林計画対象民有林の面積は40万2千haであり、森林面積の88.7%を占めている。

	大分県	全国
国土面積 (千ha)	634	37,797
森林面積 (千ha)	453	25,048
森林率 (%)	71	66



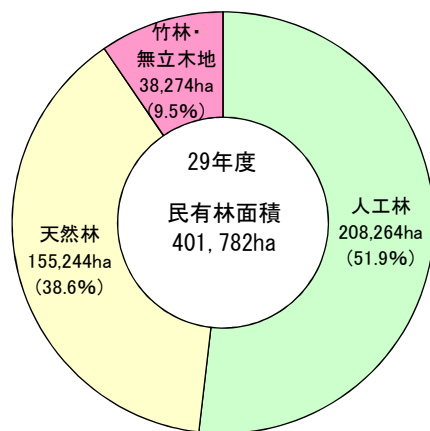
イ 森林蓄積

- ・ 森林蓄積は1億2千万m³であり、うち民有林は1億1千万m³と89.9%を占めている。



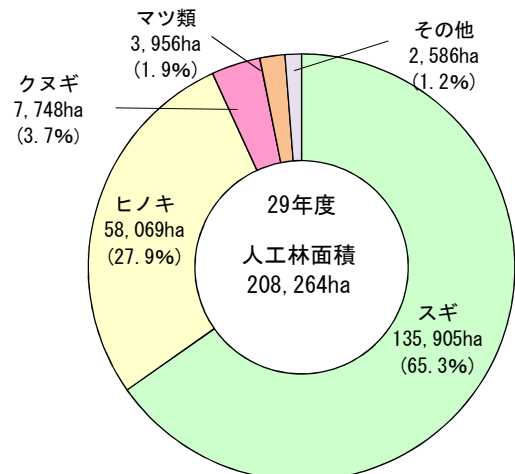
ウ 民有林の林種別面積

- ・ 民有林面積40万2千haのうち、人工林は20万8千haで51.9%を占めている。



エ 人工林の樹種別面積

- ・ 人工林の樹種別面積では、スギが65.3%、ヒノキが27.9%を占めている。



資料：森林面積：森林法第2条第1項に規定する全ての森林（林野庁「森林資源の現況」平成29年3月31日現在）

※森林法第2条第1項に規定する全ての森林：地域森林計画対象民有林＋林野庁所管国有林＋その他の森林

※その他の森林とは、森林法第5条以外の民有林及び林野庁所管以外の国有林、演習場、都市緑地、境内林等

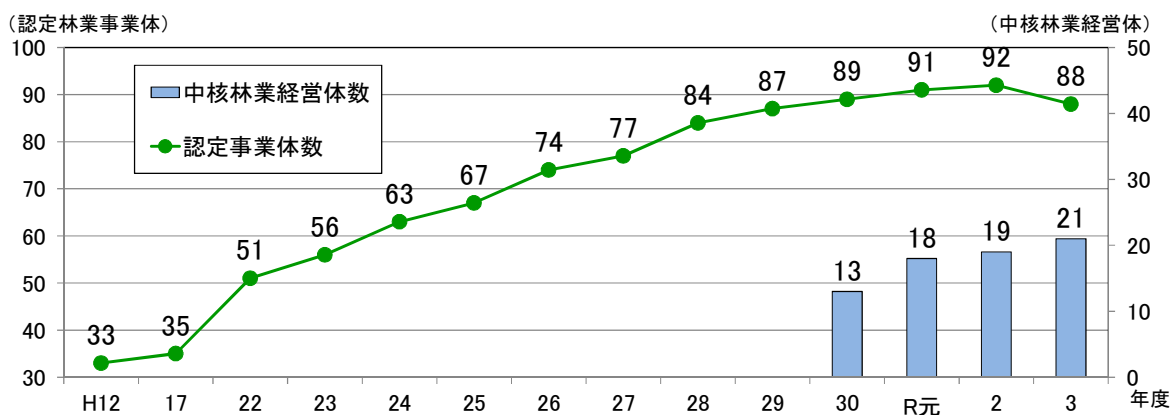
森林率：（森林法第2条第1項に規定する全ての森林）÷（総土地面積）

国土面積：国土地理院「平成29年 全国都道府県市区町村別面積調」

② 担い手の状況

ア 認定林業事業体と中核林業経営体

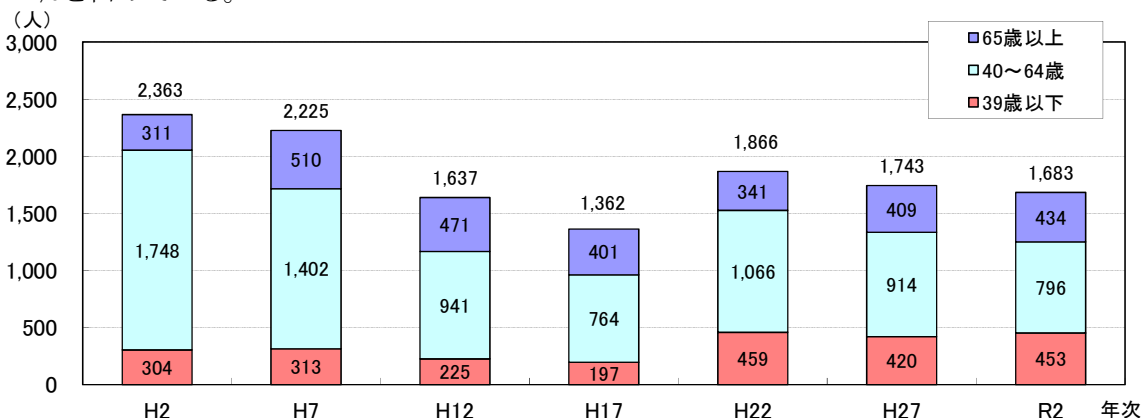
- 認定林業事業体は、令和3年度は前年から4事業体少なくなり88事業体となっている。また、素材生産力が高く、再生林の実行体制を有する中核林業経営体は21事業体となった。



資料：林務管理課調べ

イ 林業就業者数

- 令和2年の林業就業者数は、1,683名となっており、65歳未満の就業者は就業者全体の74%を占めている。

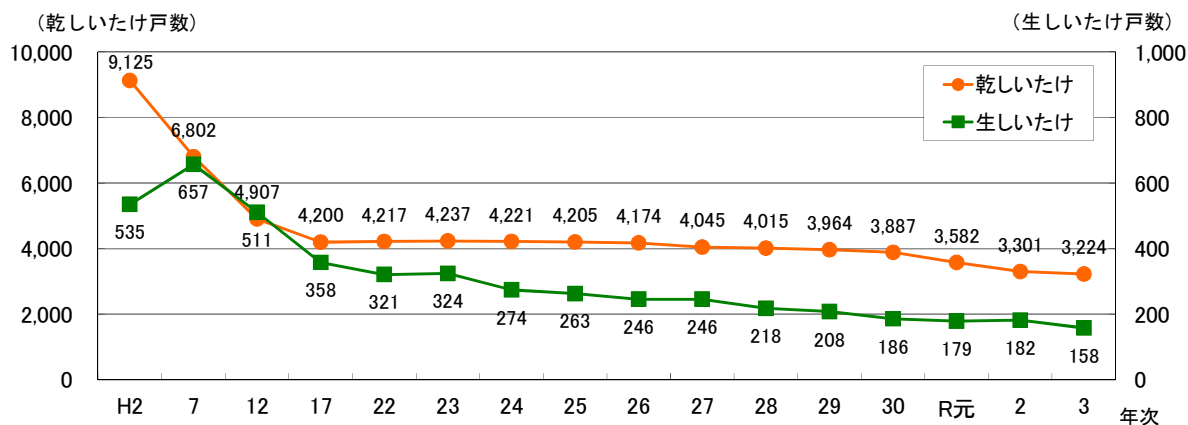


資料：総務省「令和2年国勢調査」

*平成22年国勢調査から、調査対象に「管理、補助的経済活動を行う事業所」における就業者が追加された。

ウ しいたけ生産者数

- 令和3年のしいたけ生産者数は、乾しいたけが3,224戸、生しいたけが158戸となっており、乾しいたけ・生しいたけともに前年に比べて減少している。



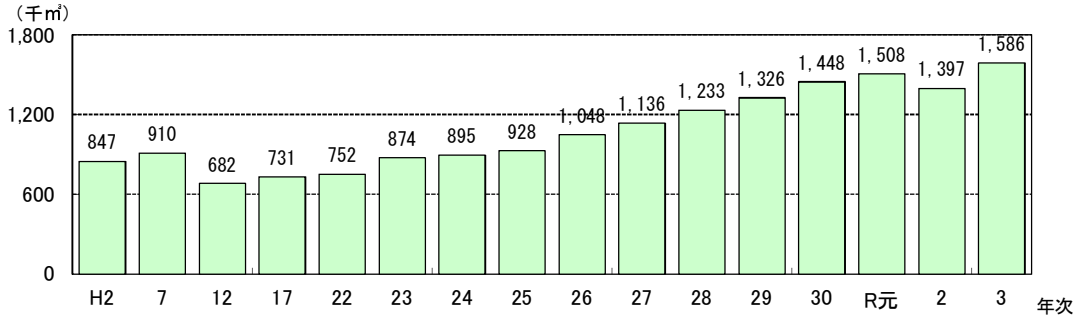
資料：林産振興室「令和3年次特用林産物需給表」

③ 林業関係の生産量及び価格

ア 木材の生産

a 木材生産量

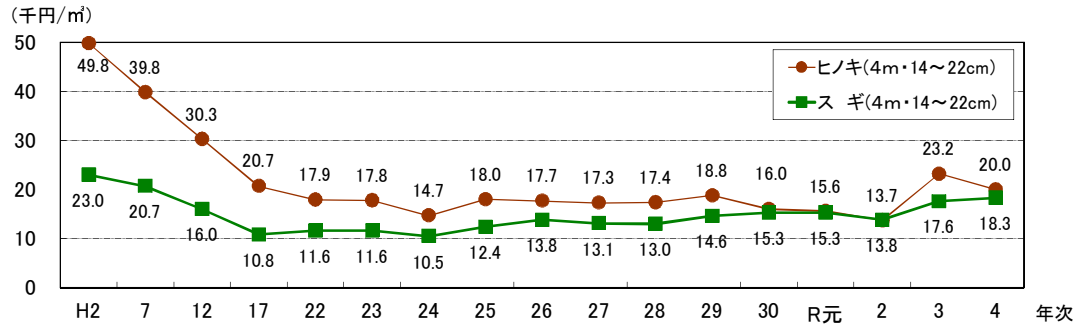
○ ウッドショックによる原木価格の上昇を受け、積極的な素材生産が行われたことから、令和3年の木材生産量は前年に比べ19万 m^3 増加している。



資料：農林水産省「令和3年木材統計」、林産振興室調べ

b 丸太価格

○ 令和4年の丸太の平均価格(長さ4m、直径14cm~22cm)は、スギが18,300円/ m^3 、ヒノキが20,000円/ m^3 となっている。

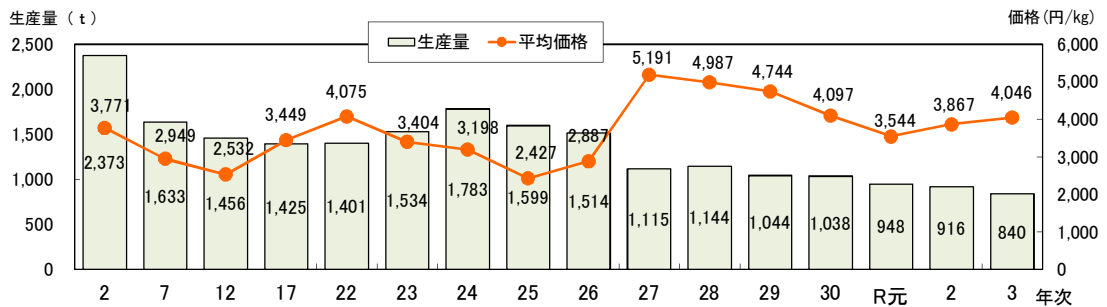


資料：農林水産省「令和4年木材需給報告書」

イ 特用林産物の生産

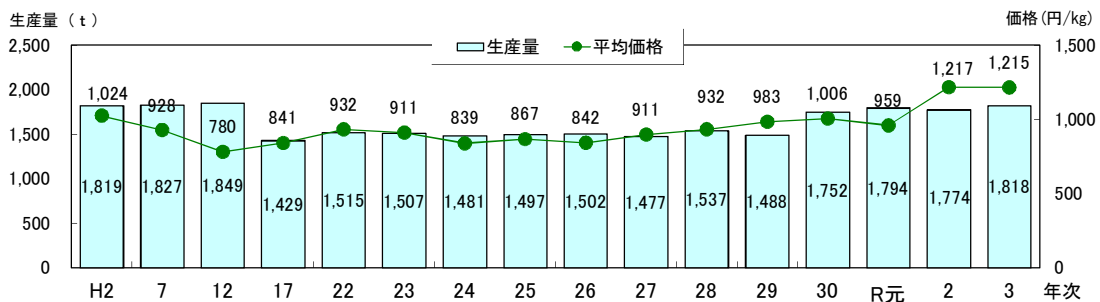
a 乾しいたけの生産量と価格

○ 令和3年の乾しいたけ生産量は、前年に比べ76t減少し840tとなっている。平均価格は4,046円/kgで、前年に比べ179円値上がりしている。



b 生しいたけの生産量と価格

○ 令和3年の生しいたけ生産量は、前年に比べ44t増加し1,818tとなっている。平均価格は前年に比べ2円値下がりし、1,215円/kgとなっている。



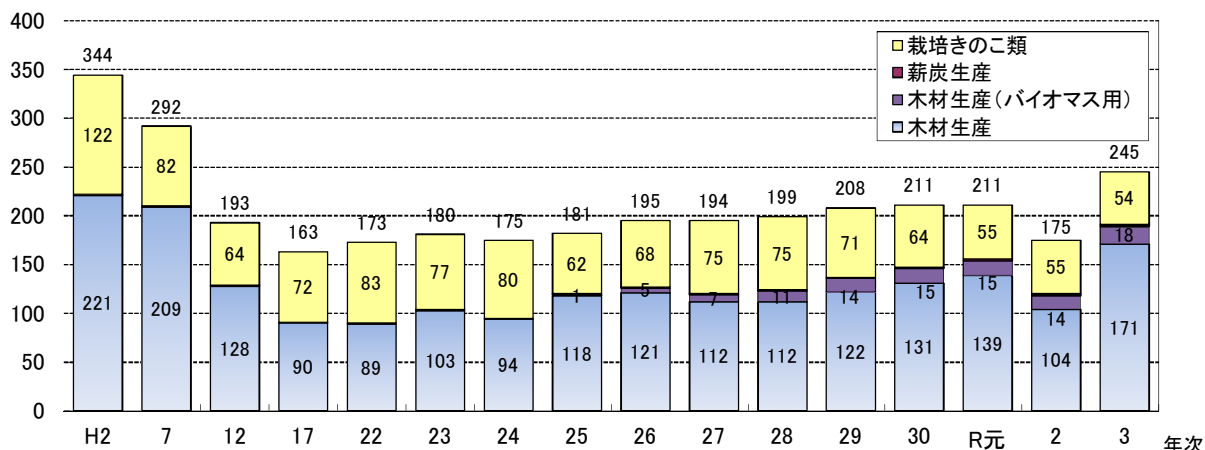
資料：(生産量) 林産振興室「令和3年次特用林産物需給表」

(平均価格) 乾しいたけ：大分県椎茸農業協同組合、生しいたけ：大分県農業協同組合

④ 林業産出額

○ ウッドショックによる木材需要の急激な高まりを受け、木材生産量は過去最高を記録し、単価も高値で推移したことから、令和3年の林業産出額は245億円と前年から70億円増加している。

(億円)



資料：農林水産省「令和3年林業産出額」、林産振興室調べ

※項目毎に四捨五入をしているため合計が一致しない場合がある

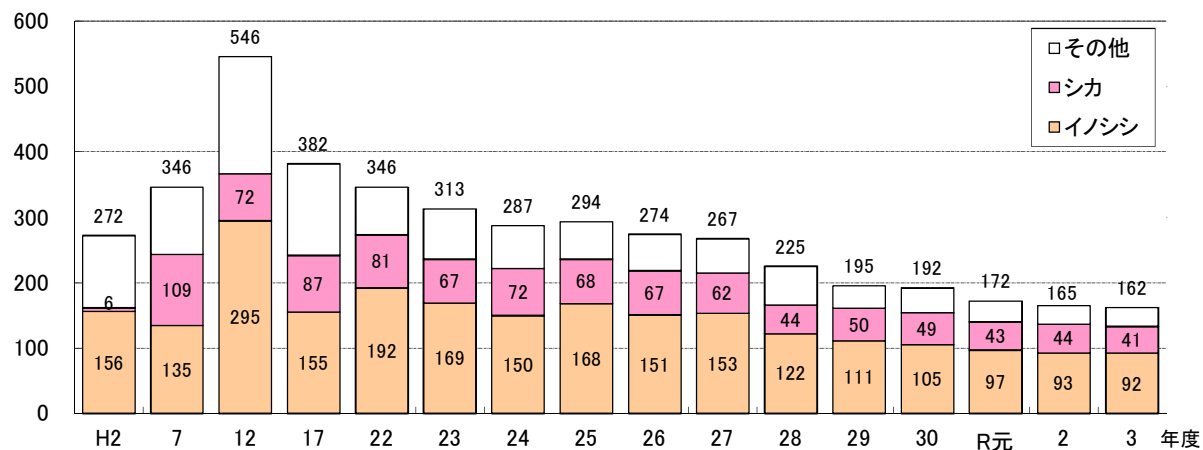
(参考) 主伐生産性 (m³/人・日) の推移

H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R6年度(目標)
9.9	10.0	10.0	10.4	12.0

⑤ 鳥獣による農林産物の被害状況 (鳥獣被害額の推移)

○ 令和3年度の被害額は、前年に比べ3百万円減少し、過去最少となる162百万円となっている。内訳では、イノシシ、シカによる被害額が大きく、被害全体の82%を占めている。

(百万円)



資料：森との共生推進室調べ